

カービュー マーケットウォッチ (2011年12月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体で2カ月連続の2ケタ増と上げ潮に

11年 11月順位	11年 10月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	34,164
2	(2)	→	フィット	ホンダ	16,399
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	10,602
4	(5)	↑	セレナ	日産	7,896
5	(4)	↓	カローラ	トヨタ	6,810
6	(10)	↑	フリード	ホンダ	6,367
7	(7)	→	ステップワゴン	ホンダ	5,586
8	(11)	↑	エスティマ	トヨタ	5,419
9	(8)	↓	ラクティス	トヨタ	4,579
10	(6)	↓	パッソ	トヨタ	4,095
11	(12)	↑	デミオ	マツダ	4,083
12	(15)	↑	クラウン	トヨタ	3,856
13	(16)	↑	ノート	日産	3,755
14	(9)	↓	ヴォクシー	トヨタ	3,636
15	(18)	↑	ウィッシュ	トヨタ	3,565
16	(14)	↓	シエンタ	トヨタ	3,392
17	(24)	↑	ジューク	日産	3,124
18	(17)	↓	マーチ	日産	3,074
19	(20)	↑	ソリオ	スズキ	2,921
20	(19)	↓	キューブ	日産	2,762

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体で2カ月連続の2ケタ増と上げ潮に！ ただ09年同月比では87.8%とマイナス状態が続く

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した11月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は32万3659台、前年同月比は125.1%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は39万5567台／前年同月比122.2%）と2カ月連続で前年を上回り、しかも10月の27.6%増に続き、11月も25.1%増と2ケタの大幅アップとなった。ただリーマンショックから立ち直りつつあった09年11月の36万8721台と比べると、87.8%と2ケタのマイナスで、タイの洪水被害による生産調整などの不確定要素を考慮すると、まだまだ不透明感はぬぐえない印象だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産 マーチ輸入分含む）は20万2449台で、前年同月比は122.7%。メーカーブランドごとの合計では、レクサスの3795台／前年同月比195.8%を筆頭に2カ月連続ですべてが前年を上回った。とはいえホンダは3万2733台で、2カ月ぶりに日産に抜かれ、前年同月比も2.5%増にとどまり、タイの洪水被害の影響をうかがわせる。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（ α 含む）」が3万4164台で6カ月連続トップ。今年投入された α が1万1500台超と好調なうえ、ベース車のプリウスのみでも2万1480台と前年を上回る売れ行きとなっている。2位の「ホンダ フィット（シャトル含む）」はシャトルを含むハイブリッド車（HV）が7677台／前月比67.7%と伸び悩み、前年割れとなったが、10月末にHVを追加した「フリード」が前月より4つ順位を上げ、6位に躍進。ただフリードにしても前年を下回っており、タイ洪水による生産調整の影響が大きいのかもしれない。

軽自動車は乗用車部門が10万2611台で、前年同月比127.8%（貨物車を含めた全体では14万3331台／前年同月比119.1%）と2カ月連続のプラスとなった。「ミライース」単独でも1万6134台（ココアを含むミラ全体で2万52台）と「スズキ ワゴンR」の1万4885台を上回る売れ行きとなっているダイハツが軽乗用車合計4万1065台／前年同月比137.8%と絶好調。ライバルのスズキに1～11月累計で5万7000台以上の差をつけ、市場を牽引している。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万7703台、前年同月比136.7%と4カ月連続で前年を上回った（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では2万1671台、前年同月比122.3%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が5290台で11カ月連続トップ。2位にはBMW（ミニを除く）が2792台で2カ月連続、メルセデス・ベンツは2714台の3位だった。トップ10圏内のメジャーブランドはすべて前年超えだが、特にVWは9月前年同月比41.1%増、10月同53.7%、11月同85.5%増と3カ月連続の大幅アップ。「ポロ」、「ゴルフ」といった人気モデルの供給改善が実績にも表れる形となった。

■ココも気になる！その1

トヨタが通期見通しを下方修正するも、コンパクトHVで再浮上？

2 カ月連続で前年同月比が大幅増に転じ、回復傾向が明確になった軽、輸入車を含む国内乗用車市場。とはいえ、1~11 月累計では前年同期比 80.1%とマイナスが続いている。なかでも苦戦しているのがトヨタ。9 月に発売された軽乗用車「ピクシススペース」やレクサスブランドを含めても、1~11 月累計で 98 万 9957 台／前年同期比 71.9%と乗用車メーカー8 社中、最もマイナス幅が大きい状況なのだ。このため、タイの洪水被害により未定としていた通期（11 年 4 月~12 年 3 月）見通しを当初より下方修正。売上高は 8000 億円減の 18 兆 2000 億円、営業利益も 2500 億円減の 2000 億円と、減収減益の予想となった。世界市場における販売台数でも、トヨタ／レクサスブランド合わせて 732 万台、前年同期比 3.2%減の見込みだという。

ただ国内市場では、6 カ月連続で前年超えとなっているレクサスを除いたトヨタ単独でも、プリウスをはじめとする HV 人気に乘じ、2 カ月連続で 19.3%増、26.3%増と回復スピードを増している。さらに 12 月末には待望のコンパクト HV、「アクア」がデビュー予定。東京モーターショーにも出展され、10・15 モード燃費 40km/L が話題を集めていたが、価格もベーシックグレードでは 160 万円程度と予想されているだけに、オーダーが殺到すること必至。一説には 12 年 3 月までに国内で 5 万台を販売する計画だといわれているが、すでに配車枠を超える予約を受け付けたディーラーも出ているという。購入を考えているユーザーは早めに動いたほうが良さそうだ。

このほか、来年早々には「レクサス GS」をフルモデルチェンジし、2 月には話題沸騰の 86 を満を持して投入。5 月に「カローラ」、8 月には「クラウン」と、来年のトヨタは基幹車種のモデルチェンジが相次ぐと予想されているだけに、アクアから始まる新車攻勢に期待大だ。

■ココも気になる！その 2

VW が 11 月としては過去最高を記録し、輸入車市場をリード

前年同月比が 4 カ月連続プラスと好調な海外メーカー製輸入乗用車は、1~11 月累計でも 18 万 1027 台／前年同期比 111.5%と、東日本大震災の影響を感じさせない売れ行きとなっている。これは輸入乗用車のエコカー減税対象車が充実したことで販売台数が増え、エコカー減税対象車の販売比率が 53.2%と、初めて 5 割を超えたことが要因だ。海外メーカーはタイの洪水被害の影響も少ないことから、今年目標であった販売台数 20 万台は達成できる見通しだ。

この好調さを牽引しているのが VW だ。今年 11 月の 5290 台という実績は、11 月単月としては過去最高で、軽自動車を除く 3/5 ナンバー乗用車のメーカーブランド別で、トヨタ、日産、ホンダ、マツダ、スズキに次ぐ 6 番目となるほどの売れ行きなのだ。特に好調なのが「ポロ」と「ゴルフ」で、ポロは在庫不足が解消されたことで前年同月比 44.9%増の 1840 台を記録。これで現行型ポロは 09 年 10 月の発売以来、3 万台を突破した。またゴルフは 8 月以降に「ゴルフ ヴァリアント」と合わせて順次投入されたプレミアムエディションが好調で、前年同月比 53.6%増となる 1853 台（ヴァリアント含む）が売れ、このプレミアムエディションがそれぞれ約 70%以上の比率になるほどの量販グレードとなった。

VW は世界市場でも好調で、アウディやセアト、シュコダを含むグループ全体の総販売台数

(商用車除く)になるが、11月単月で約45万台／前年同月比14.5%増、1～11月累計では約469万台／前年同期比12.4%増と過去最高を記録した。

日本国内では、低金利ローンやメンテナンス費用が無償となるパッケージプランといった販売支援策も効いている。クルマの出来だけでなく、総合力で勝負するVWが11月末時点の海外メーカー製輸入乗用車市場シェア29.9%をどこまで伸ばせるか、要注目だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
